

Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン

団体概要

避難先のキャンプ内でサッカーをする子ども
（パレスチナ・ガザ地区）

©Sacha Myers / Save the Children

世界中すべての子どもの権利が実現された世界を目指して。

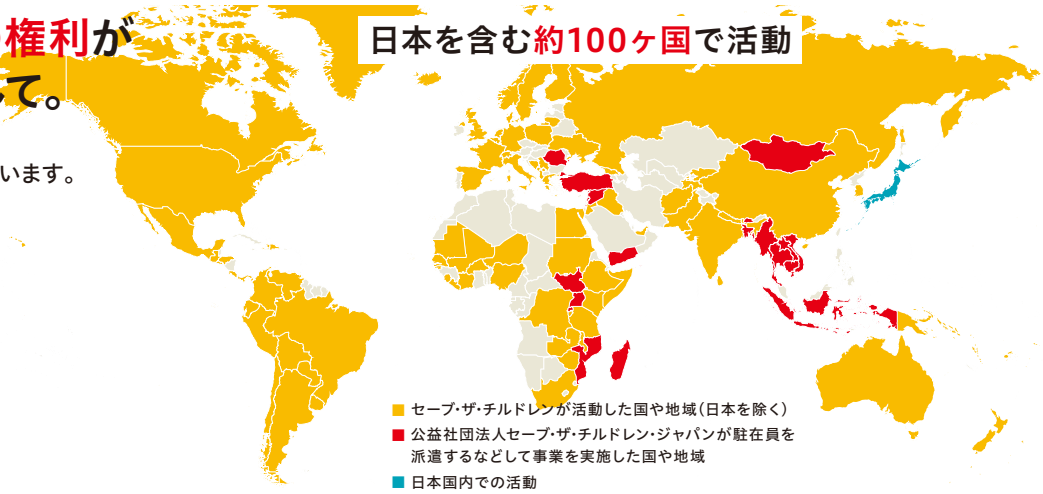
紛争や自然災害、気候変動など、
子どもたちを取り巻く状況は一層厳しくなっています。
セーブ・ザ・チルドレンは子どもたちを取り巻く
あらゆる課題に、国内外で取り組んでいます。

2025年、セーブ・ザ・チルドレンが
直接支援を届けた子ども

3,775万2,543人

大人も含め5,823万3,366人

日本を含む約100ヶ国で活動



セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの権利のパイオニアとして100年以上の歴史を持つ、子ども支援専門の国際NGOです。



創設者
エグランタイン・ジェブ

セーブ・ザ・チルドレンは、子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。第一次世界大戦後、多くの子どもが栄養不良に陥っていた中、敵味方の立場を超えて子どもたちを支援しようと立ち上がったエグランタイン・ジェブが、1919年にイギリスで創設しました。

VISION

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、生きる・育つ・守られる・参加する権利が実現された世界を目指します。

MISSION

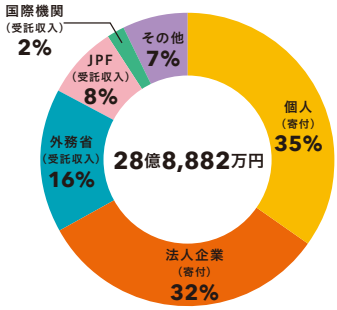
セーブ・ザ・チルドレンは、世界中で、子どもたちとの向き合い方に画期的な変化を起こし、子どもたちの生活に迅速かつ永続的な変化をもたらします。

2025年度決算概要

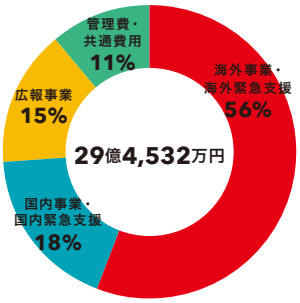
皆さまからのご寄付が、子どもたちの今と未来を支えます

約2万900人の皆さまからの継続的なご支援や、緊急支援・寄付キャンペーンへのご協力に加え、648の企業・団体などからもご寄付をいただき、多くの方々に活動を支えていただきました。

【経常収益割合】



【経常費用割合】



※千円未満は切り捨てています

海外の活動

緊急・人道支援



レバノンでは、紛争や経済危機により多くの子どもが教育を受けられない状況が続いています。私たちは、基礎学習の機会を提供するとともに、社会性やコミュニケーション力を育む活動を実施。さらに、教員研修や教材配布、地域への啓発活動を通じて、安心して学べる環境づくりを支援しました。

教育



モザンビーク北部ナンプラ州では、貧困や児童婚、サイクロン被害により多くの子どもが教育機会を失っています。小学校に通えない子ども向け教育プログラムや復学支援、児童婚防止の啓発活動やライフスキル教育などを通じて、子ども・青少年の回復力向上に取り組みました。

子どもの保護



カンボジアのコンポンチャム州では、学校での暴力が深刻な課題となっていました。そこで、子どもや教員、保護者、行政と連携して暴力防止の啓発や相談体制の整備を実施。その結果、過去1ヶ月間に学校で暴力を経験した子どもの割合は29.7%から16.7%に減少しました。

保健・栄養



ルワンダでは農村部や難民キャンプ周辺で保健医療サービスを受ける機会が限られています。そこで、看護師が運営する低コストクリニックの設立・運営を支援し、地域医療保険の適用による安定運営と、収益を新たな開業資金に再投資する持続可能な仕組みづくりを進めています。

子どもの貧困



バングラデシュのスラムでは、貧困の連鎖や遠方への女性の外出を制限する慣習により、多くの青少年が教育や就業機会を得られずにいます。そのため、青少年のもとへ出向く移動式研修センターでICT研修を行うほか、職業訓練や起業支援も提供し、就業・起業による自立を後押ししています。

気候変動適応・防災



インドネシア・スマトラ島リアウ州では、森林破壊や児童労働、就学継続の課題がみられます。セーブ・ザ・チルドレンは他団体と協働し、子どもへの環境教育や安全な学習環境づくりに加え、持続可能な農業研修や生計向上支援を実施。子どもたちが地域の課題を主体的に考え、行動する力を育みました。

日本国内の活動

子どもの貧困問題解決 ー直接支援ー



「新入学サポート2025」では1,035人へ給付金を支給、宮城県石巻市の継続型給付金「高校生活まなび*サポート」では76人を支援。また、「子ども体験プログラム」の実施や、「ハロー！ベビーボックス」1,500箱の提供、「子どもの食 応援ボックス」をのべ1万9世帯に届けました。

子どもの貧困問題解決 ー社会啓発・政策提言ー



経済的に困難な子育て世帯を対象に調査やワークショップを実施。ワークショップでは、高校生が生活状況などについて意見を交換し、国会議員に要望を直接届けました。また、調査で明らかになった切実な実態をもとに、経済的支援の拡充や教育費負担軽減に向けた社会啓発と政策提言を進めました。

能登半島地震・豪雨復興支援



2024年1月の能登半島地震および9月の奥能登豪雨に対する復興支援では、被災した世帯の子ども4,051人に給付金を提供し、受給認定世帯を対象にしたアンケート調査の報告書を公表しました。また、子どものスポーツ・文化活動を支えるために51団体に助成しました。

防災



熊本県水俣市・天草市・合志市、福岡県うきは市・大牟田市の学童保育で、防災ワークショップや研修を実施しました。子どもや学童保育支援員、自治体職員が災害時の行動や日頃の備えについて学ぶ機会を提供するとともに、防災備品の提供を通じて、地域で子どもの安全を守る防災力の向上を支援しました。

地域NPO支援



子どもたちの日常を支える地域のNPO28団体に助成を実施しました。「子ども・地域おうえんファンド」を通じてのべ4万9,960人に支援を届けたほか、「まなび・体験ファンド」でのべ1,016人にまなびや体験の機会を提供し、子どもが安心して成長できる環境づくりを後押ししました。

アドボカシー



子どもの権利の実現のために、政策決定者に対してより良い政策や制度を求めて提言を行ったり、社会に対して発信を行い、変化を生み出すことを目指しています。また、子どもの権利を学べる教材やウェブサイト「こどものケンリ」を通じて子どもの権利の普及啓発を進めました。

＊学習や就学に限らず、課外活動、スポーツ・文化・芸術活動など広くとらえるため、「学び」ではなく「まなび」としています

Save the Children

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル4F

www.savechildren.or.jp セーブザチルドレン 検索